

==== 目次 =====

- P1 今号の TOPICS
～大きく飛躍する年～
調査・広報 武井 貢
- P2 仲間たちの近況報告
カムチャツカ半島の自然を訪ねて
4班 町井 武
- P3
そば道の奥深さ
3班 牧野 功
今さら聞けない??
2班 田村 光圀
- P4
自主研修について
1班 藤田 憲治
工作同好会
3班 中川 四郎
- P5
俳句さろん
工作ギャラリー
- P6
箕面 自然観察 検定3
みんなでチャレンジしよう

====
◇主要行事予定

いよいよ今年度もあと 3 カ月となりました。1 月は今年度の活動成果を報告する研究科発表会があります。1～2 月にかけて来年度の活動体制のためのトライアル(2 班に分けた別行動など)を考え問題点をクリアーにします。そして 3 月は、本年度の「総括」と来年度の「新会員」を迎える準備月となります。

企画 堀内



今号の TOPICS

～大きく飛躍する年～

調査・広報 武井 貢

新年明けましておめでとうございます

皆様にとって、お健やかに健康で明るい一年となりますようお祈り申し上げます。今年は自然と文化科も発足後 7 年目を迎え、温暖化現象と同じように科員数も80名から100名を越す右肩上がりの成長が見込まれます。色々な面で、前年以上の幅広い活動が期待出来そうです。反面、科員の方々に満足していただけるような運営が出来るか心配です。

さて昨年4月に自然と文化科の代表が牧野さんから九津見さんにバトンタッチされ、新しい組織で運営されて、早や8ヶ月が過ぎました。今日まで何とか科員の方々に満足していただける運営が出来ていると思います。

昨年は、4つの班と企画、観察、調査、社会貢献、広報、総務等のグループを中心にして、積極的に様々な活動に取り組み、多くの成果が得られたと思います。例えば、私が担当している調査グループでは、一昨年よりホームグラウンドの箕面公園自然観察コース(尾根筋)で植生調査をしています。今年度は(谷筋)で、シダおよび草本の調査を加え、調査範囲を「線」から「面」に広げて、森の特性を深く捉えていく活動をしました。広報グループでは、ホームページのデザインを見直し、更新したこと、広報誌「自然と文化だより」を発行出来たこと等です。その他のグループの活動成果としては、「自然と文化科」の規約、平常業務の役割分担、等々が成文化され発行されたことです。

今年も同じ志を共有する仲間と共に汗をかき、知恵を出し、手を繋ぎ、輪になり、自然と文化科の理念を念頭に入れて活動し、お互いの親睦を重視し、参加して楽しい文化科を目指して、頑張りましょう。又、科員が多くなっても持続可能な循環型の文化科を構築するための知恵を出し合ひましょう。

新年を迎えて、科員各位の今後のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。皆様にとり 2010 年が素晴らしい年でありましよう！自然と文化科がよりよくなる年でありますように！！



4班 堀田和子

カムチャツカ半島の自然を訪ねて

4班 町井 武

7月 11 日 関空からカムチャツカ半島まで直行便（アエロフロート）で4時間、夕方、ペトロパブロフスク空港に到着した。到着してから小さく暗い入国管理事務所まで入国するのに2時間も要した。度々の入出国管理端末のダウンに加え入国書類の数回の些細な訂正（係官の気分が変わるとか）など。

早朝、登山ベースキャンプに向け出発。移動車は軍用トラックを改造したコンテナもどきの客席の6WD車。国道から外れて道なき道の枯れた川床を乗客は中で転がり乍ら、うねるように進む。道端の高山植物や美しい山々の雪渓が迫ってくる。



今夜の宿泊地となるベースキャンプの周辺は高山植物の宝庫だとか。信州や北海道の山々で見かける花々があたり一面に咲いている。カムチャツカは7月、8月の2カ月間だけが春・夏・秋で他は全て冬だそうで積雪が4～5m、草花は急いで咲いている様だ。目の前にはアバチャ山(2741m)、カリヤキ山(3456m)の2火山があり夫々、煙が出ている。2年前に噴火したばかりらしいがそれを言うと観光客が来なくなるから黙っているとの事だとか。

ベースキャンプには 10 個のコンテナ様の宿泊棟と木造の食堂が一軒。各コンテナ改造部屋には二段ベッドがつくられており約10人が寝ることが出来る。



日本の山小屋より十分余裕がある。しかし此处での悩みは蚊の大群が飛来し、たちまちあちこち刺される。

翌朝に気がついたのだが良く晴れているのに鳥の鳴き声が全く無いので現地ガイドに聞いてみたら、殆んど居ないとのこと。理由は餌になる実の出来る樹木が育たないらしい。確かに周りには僅かばかりのハンノキ類とヤナギ科の木しか無かった。

3日目午前中は草花の観察会、フラワーガイドに沢山の花を教えてもらおうが残念乍ら右から左にぬける。エゾツツジ、千島フウロ、トウヒレン、ウルップ草、アツモリ草、トウヤクリンドウ等は分かるがその他は残念だが覚えきれない。この地方固有の草本は数種類のみで他は日本の高山や北海道と同じ種類だそう。固有種はベンケイソウ科・マメ科・ムラサキ科・ケシ科・ナデシコ科・ゴマノハ科が夫々各1種、アブラナ科2種など（名前は例えば、オキシトロピス・カムチャツカなどややこしいので省略）。午後はロシア人のダーチャを訪問し手作りのジャム、お菓子を頂いた。彼等は、平日は町のアパートに住み週末にダーチャ（別荘）で過ごすという。ダーチャとは日本流に言えば家庭菜園付き農家のような家で、ペレストロイカ後に国から土地を貰い小さなコテージを建て、畑で野菜、花、果物を作っている。

4日目はロシアのスイスと呼ばれているバチカゼツ高原へ。ここへも道なき道をオフロードで。この高原も赤や黄・紫色の高山植物が咲きみだれ大変すばらしい。しかし此处でも又、前日の倍ほどの蚊の大群に歓迎された。ネットを被っても気休め程度。そのあと高原の麓のナチキンス湖へ。1週間前からサケが産卵を始めたとのことでクマが出没するとの事。我々のグループの前後には銃を持った兵士が同行。クマに怯えながらも雄大な自然を満喫しつつ、サケの溯上を見に行った。5日目帰国。手つかずの自然とツンドラ地帯の一部を知った楽しい旅でした。



キバナノアツモリソウ



そば道の奥深さ

3班 牧野 功

『道を解さんと 精進を積みて 自ら楽しむこれ 道楽なり そばに道を求め 自然の理のもと 心の帰る』この言葉は「越前そば道場」を主宰する中山重成氏の言葉です。

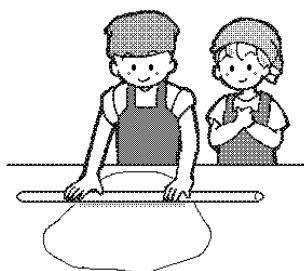
4年前に地域に何か貢献できるものはないだろうかと思いシニア自然大学で学んだことにプラスアルファを求め「そば道」に首を突っ込みました。最初は無我夢中で打っており、少しの知識でプロの「蕎麦」屋さんを評価したもので、あそこの蕎麦は“まあまあ”だとか、“もう一つ”だとか今から思えばプロの方に大変失礼なことであったなあと思っております。2年目に入って認定会に参加しても上手いかず自分是不器用な人間だなあと考えたり一つの壁に当たり悩んだり？した時期をまだ引きずっております。

「そば道」は「人間形成」「仲間づくり」「地域づくり」を進める「愛情あふれる高尚な趣味」と教えられております通りこれからは心にゆとりを持って遊び心を重点に置き行動していきたいと考えております。今お話があるのは留学生、外国の人たちとの交流会に「そば打ち」参加のお誘いを受けております。

3年前にそばを植えて収穫しその実を粉にして打ってみようと思い亀岡の「東別院ふれあい道場」の畑（100坪程度）に植えましたがこれが又大変でした。種蒔きすることは簡単ですが、花が咲き実がなり収穫するところまでは問題なかったのですが、実を取り出す作業が大変で「唐箕」という農具が必要でこの農具を持っている仲間のところへ亀岡から収穫したそばを運び数人で作業した事が懐かしい思い出として残っております。

一つの趣味として首を突っ込みある程度のレベルで終わり後は楽しくと思っておりましたが奥が深いくらいでも道があるような感じがいたします。

これからは「美味しいそば」を打つにはどうしたら良いのかを模索し地域の方々に「そば」の食文化を通じて仲間づくりをしていきたいと考えております。



今さら聞けない???

2班 田村 光圀

最近、「今さら聞けないパソコンのいろは」とかその他でも同様な見出しの広告をよく目にします。

私は自然と文化科にお世話になって数年になります。その間科では大変多くのことを教えて頂きました。然るに何年か前からボケというか認知症の始まりかと思われる症状がでてきて自然観察会の時等で過去何回も何回も見て教えて頂いたりした草・木の名前が出てきません。（極端なところ1時間前に聞いたことも忘れます）表題のように「今さら聞けない・・・」という場面にたびたび遭遇します。聞かないで済ましますと健康に良くないと思って厚かましくも教えて頂いておりますが、さっき聞いたばかりのことを再度、再々度もお聞きし迷惑をおかけしています。

話は変わりますが、自然と文化科の仲間では、自然を学ぶ場のためなのか元気な仲間の集まりなのか健康に関する話題は余り聴こえてきませんが、私の学校や会社の同窓会の席では、他に話すことがないのかと思う程自身や家族の健康に関する話が多くみられます。

また私は、地元で「一人暮らしの老人食事会」にボランティアとして参加しいろんな人と話す機会があります。本会は65歳以上が対象で90歳以上の方の参加もあり、お元気な方が参加されている会ともいえますが、ある高齢の方から遠慮がちに「介護保険が分からない」との質問を受けました。お元気な故に今まで介護の必要がなかったのです。他にもそろそろ心配なのに「今さら聞けないし」と思っていた方も結構おられました。早速、地元の病院にお願いし「介護保険について」のお話をしてもらいました。

介護保険制度ができてから10年程になるようですが、実際に介護経験ある方は別として、なかなか理解しにくいことが多々あります。「介護保険制度のしくみ」、「介護保険の対象者は・・・1号被保険者、2号被保険者とは」、「介護サービスを受けるための手続きは」、「要介護度とは・・・何段階あるか」、「介護サービス、介護予防サービスとは」、「どんなサービスが受けられるのか・・・通所サービス、在宅サービス、施設サービス他」、「どんな施設があるのか・特別養護老人ホーム、老人保健施設とは」、「サービスを受けた時の負担金は」等々かなり複雑です。

「今さら聞けない」等と言うってはおられません。ボケが酷くならないうちに「今のうち直ぐにでも」学ばねばと思っています。

自主研修について

1 班 藤田 憲治

私、一昨年は「温暖化でツキノワグマが絶滅」、昨年は「体系的果実論と漢方」という題で公開講座の午後に二時間頂き、自主研修でまとめたものを発表いたしました。今年もと思い、テーマを考えて取りかかっていましたがその機会がないようなので、又来年と思っています。そのテーマは「人類の危機のキーワード＝目に見えないもの」でした。その内容は・・・。

①暖化(キリマンジャロ・エベレスト・アルプス氷河・グリーンランド・南極、これらの氷河の融解による海面上昇。世界の低地の現象。その結果起こる黄河等の河川の枯渇。今中国が大台ヶ原の土地の買い占めを水採掘の為大規模に行っている。水戦争はすでに始まっている。南極からの低層水の流れの停止)

②紫外線(X線よりは長いが可視光線よりは短い。高地の中国やペルーを原産とし紫外線で突然変異したものは多数。)

③放射能(スリーマイル島やチェルノブイリの原子力発電所の事故。北海道の牛乳からも放射能が検出。発展途上国による核拡散と事故)

④ウイルス(ウイルスの自然変異と細菌兵器としてのウイルスの漏出)

⑤マンハイトレートの崩壊(800 万年前にノルウェーで1000 キロにわたり起きたマンハイトレートの崩壊。10年で平均気温4度の上昇。日本太平洋岸に大量に存在するマンハイトレートの地震等による崩壊。可能性大)

⑥寒冷化(セントヘレナ火山等の大規模噴火による火山灰の大気圏対流による寒冷化。温暖化より深刻。火山灰による太陽光の遮蔽。植物が光合成できず枯渇。それにより生存するあらゆる生物の滅亡)

⑦フォトンベルト(日本人はあまり知らないが世界的には広く知れている、ハッブル宇宙望遠鏡が発見して解析したフォトンベルト＝光子帯。嘘とか嘘でないとかの論争が盛んに行われている。是非、フォトンベルトを検索してください。)

工作同好会

3 班 中川 四郎

明けましておめでとうございます。

今年の干支に因んで、自然の素材を使った「張子の虎」を創作しました。この作品は、昨年10月の工作同好会で講習のテーマとして取り上げました。材料は、頭部：メタセコイヤの球果、眼：アカメガシワの種、胴体：ソテツの実(中をくり貫いたもの)、尻尾：蔓、脚：ススキの茎。頭部のバランス用に小さいナットを使用しています。

「張子の虎」についてインターネットで調べると、日本古来の虎の文献は、545年(欽明6年)百済への使者が、彼国で退治した虎の皮を持ち帰ったのが始めとされています。

以来、虎は生まれ出るもの、動き始めるもの、つまり万物の生命の始まりをつかさどる象徴として「張子の虎」となり、各地に広まってゆきました。

また、四方守護の神々「四神」の中で西方を守る百虎は、あらゆるものに強さの点で勝つことから、虎は子供の成長、逆境の打破などの役目を負った最強の者として、男の子の端午の節句のお飾りとしても定着しました。

また、干支としての「寅」も縁起の良い干支と言えるでしょう。神農祭で有名な張子の虎は、江戸期の大坂でコレラが大流行した時、薬のまちである道修町の薬種仲間が、虎の頭骨などを混合した疫病除薬を作り、同時に魔除けとして張子の虎を作ったのが由来とされています。ただ、「張子の虎」の言葉の意味は(三省堂 大辞典)

(1)首が動くように作った虎の張り子の玩具。

首を振り動かす癖のある人をあざけっていうのにも用いる。

(2)(転じて)見かけだけ強くて、本当は弱い人。虚勢をはる人。

とあり、あまり芳しくはありません。

今年は、阪神タイガースも[張子の虎]でなく本物の虎の勢いを期待したいものです。



俳句さろん

鶴 敏子

あおぞらを透かして映ゆる冬もみじ
山もみじ見つめられてか恥じらひを
タカノツメ黄葉の葉は日に照りて
吹き寄せの黄葉(もみじ)に触るる鶴一羽

岡田 進

奥信濃の戸隠にて
秋の日にサラシナショウマ真っ盛り
秋風に揺れヤブデマリなやましき
奥信濃 賑わう境内秋祭り
忘れずに今年も来たかアキアカネ

谷坂 修二

紅葉の五目ご飯のごとくなり
いつのまにか蟬の声より虫の声

久保 和恵

霜柱 テーブルストーン を造り上げ
落ち葉踏む森のしじまのなほ増せり
縦糸の杉に織りなす紅葉樹
水檜の朽ちし木肌になめこ噴く
なめこ汁苔の匂ひがぷんと立ち

山上 恵子

蕎麦の花白馬に白を添へて咲く
紅葉燃ゆ絵師が大きく振りし筆
干し柿を配りて宴の始まりぬ
句碑一つ紅葉の下の人だかり
伊丹市昆虫館にて一句
今を在る濡れし翅(はね)持て蝶生まる

松平 吉生

降るといふスローモーション谷落葉
誕生日寒さもつとも徹すべし
かりがねに続き寒雲波郷以後
さくら紅葉のこり数枚散らぬつもり
寒の水飲んで重心生じけり

三浦 節子

春待やリックの中の虫メガネ
ゆく年や流星さがす汀かな

工作ギャラリー

万華鏡

タイプ	①セル(チェンバー)タイプ(基本形)	②ペットボトルタイプ(変形)
イメージ		
本体	紙管	ペットボトル
ミラー	3 枚	3 枚
オブジェクト容器	プラスチック容器	ペットボトル(底)

タイプ	③ビー玉タイプ(テレイトタイプ)	④オイルタイプ(ワンドタイプ)
イメージ		
本体	竹筒	紙管
ミラー	2 枚	2 枚
オブジェクト容器	無し(ビー玉)	試験管

尾の動くダックスフント



箕面 自然観察 検定

みんなでチャレンジしよう

自然と文化科の皆さんには優しすぎるかもしれませんが、まずは挑戦してみてください。

1 【観鳥台西側の樹冠に秋、紅葉するブドウ科の植物が見られますが次のどれでしょう。】

1. ノブドウ
2. アマヅル
3. エビヅル
4. サンカクヅル

2 【テイカカズラは定家葛と書き藤原定家がある女性の墓にツタとなってまとわりついたといわれる。さて、ある女性とは誰でしょう。】

1. 紫式部
2. 式子内親王
3. 皇嘉門院別当
4. 小野小町
5. 清少納言

3 【滝道を滝から少し下るとカリガネソウが生えています。面白い花の形と匂いに特徴があります。漢字で書くと】

1. 雁草
2. 鴨葱草
3. 帆掛草
4. 借金草

4 【箕面の天然記念物は何でしょう】

1. サル生息地
2. シダ生息地
3. イロハモミジ
4. オオサンショウウオ

5 【箕面市は「サルに餌を与えた人に罰金を課す」条例を22年4月から実施します。さて、その金額とはいくらでしょう。】

1. 1千円以下
2. 五千円以下
3. 1万円以下

6 【東海自然歩道は、「明治の森高尾国定公園」と、大阪の「明治の森箕面国定公園」を結ぶ、緑豊かな自然と貴重な歴史を伝える文化財を訪ね、心身の健康と安らぎを与える総延長1,697.2kmの長距離自然歩道です。西の起点は箕面の何処にあるでしょう】

1. 阪急箕面駅前
2. 箕面公園昆虫館前
3. 箕面の滝の下
4. 箕面ビジターセンター前

7 【才が原林道で観察されるサクラで一番最後に開花する木はどれでしょう】

1. ヤマザクラ
2. ウワミズザクラ
3. エドヒガン
4. イヌザクラ
5. リンボク

8 【箕面の滝道にはシダ植物が多く 面白そうな名前のシダを集めました。ウラボシ科（葉の裏の胞子のう群が円形で、それが多数並んでいるのを星に見立てたもの）でないシダはどれでしょう】

1. マメヅタ
2. シンガシラ
3. ヒトツバ
4. ノキシノブ
5. ミツデウラボシ

9 【シダの仲間にカニクサがあります。その特徴は】

1. 葉が蟹のかたち
2. 蔓に葉が互生している
3. 蔓に葉が対生している
4. 1本の蔓に葉がたくさん付いているように見えるが1枚の葉である

10 【箕面公園滝道の昆虫館前野村泊月の句碑の後ろで箕面断層の活動が観察できます。箕面断層はどの断層帯に属しているでしょう。】

1. 六甲・淡路島断層帯
2. 有馬・高槻断層帯
3. 上町断層帯
4. 中央構造線断層帯



4班 鍵谷 享子

シダ植物

広報より

俳句さろんに沢山の応募ありがとうございます。
次号にも、皆さんの参加をお待ちしています。

挿絵の応募ありがとうございます。

箕面自然観察の検定問題を募集します。
観察会にも活用できると思いますので
奮って応募願います。

谷坂